

名大トピックス

NAGOYA UNIVERSITY TOPICS

No.229

2012年6月

益川特別教授がモンゴルを訪問し講演及び大学視察を行う



目次

●ニュース

益川特別教授がモンゴルを訪問し講演及び大学視察を行う	3
名誉教授称号授与式・懇談会を開催	4
濱口総長が日中韓「キャンパス・アジア」パイロット事業発足記念式典に出席	5
名古屋入国管理局との情報交換会を開催	5
平成24年度春季新入留学生歓迎懇談会を開催	6
平成24年 春の叙勲・褒章受章者決まる	6

●知の未来へ

光感受性イオンチャネルを用いた細胞機能の光制御	7
小野 健治（環境医学研究所助教）	

●知の先端

細胞内トラフィックが制御する増殖シグナル	8
花房 洋（大学院理学研究科助教）	

●部局ニュース

東海4県3市および国立4大学連携防災シンポジウムを開催	10
奈良坂源一郎氏のブロンズ像披露式典を挙げる	10
第1回地球教室「深海の地層と化石を調べよう！」を開催	11

●本学関係の新聞記事掲載一覧 平成24年4月16日～5月15日	12
---------------------------------	----

●INFORMATION

平成24年度名古屋大学公開講座	15
-----------------	----

●イベントカレンダー	17
------------	----

●ちょっと名大史	
学部の誕生と草創期① — 農学部 —	20

益川特別教授がモンゴルを訪問し 講演及び大学視察を行う





2

1

3

- 1 名誉博士号を授与された益川特別教授（左）と
トゥムルオチル モンゴル国立大学長（右）
- 2 文化宮殿での講演会の様子
- 3 新モンゴル高校での記念撮影

益川敏英本学特別教授が、4月17日（火）から24日（火）までの間、モンゴルウランバートルを訪問し、講演、大学視察及び学生との交流を行いました。これは、日本とモンゴルの外交関係樹立40周年を記念する主要行事の1つとして、在モンゴル日本国大使館及びモンゴル国立大学からの招待を受けて行われたものです。

益川特別教授は、20日（金）、モンゴル国立大学から名誉博士号を授与され、その後、同大学において、研究者及び学生を対象とし、「70年の素粒子、混沌からパラダイムへ」と題した講演を行いました。

21日（土）には、文化宮殿において、

一般市民を対象とした講演を行いました。この講演は、同行した濱口総長と益川特別教授との対談形式で行われ、益川特別教授は、本学で学ぶきっかけ、素粒子分野への興味、ノーベル賞を受賞した研究が生まれたきっかけなど、生い立ちから研究エピソードまでを幅広く紹介しました。講演後、聴衆との活発な質疑応答が行われ、女子学生から「研究生生活をする上で、恋愛は妨げになりましたか」という質問を受け、益川特別教授夫人に発言を促す場面もあり、和やかな雰囲気の中、終了しました。

これらの講演に先立ち、18日（水）に、清水武則駐モンゴル日本国大使及

びオトゴンバイル モンゴル教育文化科学大臣を表敬訪問し、19日（木）には、モンゴル国立大学内に設置した名古屋大学日本法教育研究センターを訪れ、同センターで日本法と日本語を学ぶ大学生及び教職員との意見交換を行いました。引き続き訪れた新モンゴル高校では、生徒達の拍手で迎えられ、馬頭琴演奏など盛大な歓迎を受けました。

21日（土）午前には、モンゴル科学技術大学内に設置した名古屋大学フィールドリサーチセンターを訪れ、視察を行いました。

滞在期間中は多数の取材を受け、新聞やテレビ等でも報道されました。



名誉教授称号授与式・懇談会を開催

名誉教授称号授与式が、5月11日(金)、豊田講堂第1会議室において挙行されました。

名誉教授の称号は、本学教授として7年以上勤務し、教育上又は学術上特に功績のあった方等に授与するもので、今回新たに48名(新制計1,109名)の先生方に授与されました。

授与式では、今回出席された32名の新名誉教授に、濱口総長から辞令書が授与され、永年にわたり本学の教育・研究の発展に多大なる貢献をされたことへのお礼と、お祝いのことばが述べられました。続いて、新名誉教授を代表し服部重昭先生からお礼のあいさつがありました。

その後、シンポジオンホールにおいて、名誉教授懇談会が約100名の参加を得て開催されました。懇談会は、新名誉教授の紹介で始まり、昨春からの叙勲等受章者、役員・部局長の紹介に続いて、総長からあいさつとこの1年の本学の動き等について報告がありました。その後、現名誉教授を代表して小川英次先生からスピーチがあり、岡崎恒子



あいさつをする総長

先生の発声で乾杯が行われ、参加者は、終始和やかな雰囲気の中で懇談しました。

今回、新たに名誉教授の称号が授与されたのは、次の方々です。

文学研究科	江村治樹	理学研究科	町田泰則	工学研究科	高井治
文学研究科	春日豊	医学系研究科	上田裕一	工学研究科	竹田美和
文学研究科	清水純夫	医学系研究科	那須民江	工学研究科	谷本正幸
文学研究科	高橋亨	医学系研究科	西山幸廣	工学研究科	椿淳一郎
教育発達科学研究科	速水敏彦	医学部(保健学科)	青山隆彦	工学研究科	中村新男
法学研究科	磯部隆	医学部(保健学科)	小幡康範	生命農学研究科	木村真人
法学研究科	佐分晴夫	工学研究科	石田幸男	生命農学研究科	小林迪弘
法学研究科	本間靖規	工学研究科	井上順一郎	生命農学研究科	服部重昭
経済学研究科	奥村隆平	工学研究科	上田哲彦	国際開発研究科	長田博
経済学研究科	佐藤倫正	工学研究科	金田行雄	国際開発研究科	木村宏恒
理学研究科	尾張部克志	工学研究科	河野明廣	国際開発研究科	二村久則
理学研究科	鈴木順三	工学研究科	佐藤一雄	多元数理科学研究科	庄司俊明
理学研究科	富松彰	工学研究科	鈴木憲司	環境学研究科	川田稔
				環境学研究科	田上英一郎
				環境学研究科	辻本誠
				環境学研究科	西原和久
				情報科学研究科	阿草清滋
				情報科学研究科	石井健一郎
				太陽地球環境研究所	菊池崇
				地球水循環研究センター	安成哲三
				年代測定総合研究センター	鈴木和博
				発達心理精神科学教育研究センター	鶴田和美

(授与番号順、敬称略)



記念撮影

濱口総長が日中韓「キャンパス・アジア」パイロット事業発足記念式典に出席

濱口総長が、5月13日(日)、中国 北京において、日中韓「キャンパス・アジア」パイロット事業発足記念式典に出席しました。同式典は、第5回日中韓サミットの一環として開催されたもので、野田佳彦首相、中国の温家宝首相、韓国の李明博大統領をはじめ、同事業に採択された日中韓の大学（一橋大、立命館大、中国の北京大、清華大、中国人民大、韓国の韓国開発研究院、成均館大、東西大）の学長、中国の学生らが北京の人民大会堂に集い、事業のキックオフを盛大に祝いました。

総長は、各種セレモニーの他、3首脳との記念写真の撮影に参加し、その後、日本の文部科学省に相当する中国教育部により催された晚餐会に参加し、連携大学の学長らと今後の事業の推進について意見を交わしました。

同事業は、日中韓の大学が連携して、質の保証を伴った教育交流プログラムを開発し、相互に学生交流を行う日中韓3カ国政府による共同プロジェクトです。将来的にアジアの教育交流のスタンダードを構築するための先導的プログラムとして期待されています。

本学では、「東アジア『ユス・コムーネ』（共通法）形成に向けた法的・政治的認識共同体の人材育成」（連携大学：

中国の中国人民大、上海交通大、清華大、韓国の成均館大、ソウル大）、「持続的社会に貢献する科学・材料分野のアジア最先端協働教育拠点の形成」（連携大学：東北大、中国の南京大、上海交通大、韓国のソウル大、浦項工大）の2構想が採択されています。

本学の構想を含む同事業は、サミットの成果文書「3国間の包括的な協力パートナーシップの強化に関する共同宣言（日本語仮訳）」の中で、「3国間の教育協力を更に促進するため、我々は日中韓教育大臣会合メカニズムの立ち上げに向けた努力を継続することを決定した。我々は、3カ国によって立ち上げられた『キャンパス・アジア』の大学間交流パイロットプログラムを歓迎し、プログラムの成功を期待した。我々は、3カ国がプログラムを通じてアジアの共有された質保証枠組みの立ち上げに貢献し、地域のより多くの、より良い人材の育成に向けてプログラムの規模と範囲を更に拡大することを奨励した」と言及されています。

名古屋入国管理局との情報交換会を開催

名古屋入国管理局との情報交換会が、5月14日(月)、IB電子情報館大講義室において開催されました。

初めに、勝平国際部長より開会のあいさつがあり、次に、原田明夫名古屋入国管理局留学・研修審査部門首席審査官が「申請取次制度及び入国管理行政について」、山本英輝同就労審査部門統括審査官が「在留資格審査業務（就労

について」と題して、それぞれ講演しました。

原田首席審査官からは、これまでの在留管理制度との大きな変更点として、今年7月9日(月)から新たに在留カードが導入され、在留資格「留学」の期間が最長4年3カ月になり外国人登録制度が廃止される点、再入国許可制度が変更となり、在留カードを所持している外国人は出国後1年以内に再入国する場合は、原則として再入国許可を受ける必要がなくなる点（みなし再入国許可）等について重点的に解説があり、その後、事前に受け付けた在留管理制度に関する質問に対して回答しました。

また、山本統括審査官からは、在留資格審査業務の複雑さ等についての具体的な話がありました。

名古屋を中心とした東海地方の各大学、教育機関等から約180名の参加があり、終了後も、積極的に個別の質問をする出席者の姿が多数見受けられました。



会場の様子

平成24年度春季新入留学生歓迎懇談会を開催

平成24年度春季新入留学生歓迎懇談会が、5月16日(水)、南部食堂において開催されました。同懇談会は、今後の留学生活が実りのあるものになるよう激励し、留学生と留学生関係教職員との懇談を通して一層の相互理解・交流を深めることを目的としており、当日は、新入留学生、教職員など約300名の参加がありました。



懇談する総長と留学生

最初に濱口総長から歓迎、激励のあいさつがあり、これを受け、新入留学生を代表して、大学院国際言語文化研究科の許臨揚(中国)さんと、大学院医学系研究科の王越(中国)さんが、それぞれ日本での留学についての抱負等を述べました。

続いて渡辺理事の発声により乾杯し、その後、懇談にうつりました。新入留学生が総長や教職員を囲んでにこやかに歓談したり、記念撮影したりする姿が会場のあちらこちらで見受けられました。

懇談会は、町田留学生センター長の閉会のあいさつの後、大盛況のうちに終了となりました。

平成24年 春の叙勲・褒章受章者決まる

—本学関係者7名が喜びの受章—

平成24年 春の叙勲及び褒章の受章者が発表され、本学関係者では次の方々が受章されました。

【叙勲】

[教育研究功労 関係]

瑞宝大綬章 松尾 稔 名誉教授(工学部)
元学長
元工学部長
財団法人科学技術交流財団
理事長

瑞宝中綬章 藤瀬 浩司 名誉教授(経済学部)
元経済学部長
元愛知淑徳大学大学院
現代社会研究科長・教授

瑞宝中綬章 野本 久夫 名誉教授(教養部)
元愛知工業大学教授

瑞宝中綬章 穂積 和夫 名誉教授(農学部)
元奈良産業大学教授

[文部行政事務功労 関係]

瑞宝双光章 近藤 心正 元工学部事務部長

[学校業務功労 関係]

瑞宝单光章 植村 茂 元医学部・医学系研究科
経理課機械保守工

【褒章】

紫綬褒章 松本 邦弘 大学院理学研究科
副研究科長・教授

光感受性イオンチャンネルを用いた細胞機能の光制御

環境医学研究所助教
小野 健治

駆細胞株に ChR2 を発現させた細胞では、青色光照射によって膜電位変化が生じるだけではなく、mRNA およびタンパクレベルにおいてオリゴデンドロサイトの表現系を示す細胞に分化することがわかりました (図 2)。現在は、ChR2 を遺伝子導入した細胞を生体に移植し、青色光照射によって細胞機能や細胞分化を調節することで脱髄疾患などの脳疾患を改善できるか検討しています。

これまで生体内の細胞を機能調節する手法として薬物投与が主に行われてきましたが、分子標的薬などの一部の選択性の高い薬物は存在するものの、特定細胞だけに薬物を送達させ機能させることは困難でした。本手法では、光照射した細胞の性質だけを可変するので、特定の細胞を選択的に制御でき、目的部位に光が到達するのであれば生体外から遠隔制御することも可能です。また、この手法はさまざまな細胞に用いることができるので、骨髄細胞や iPS 細胞などに遺伝子導入することで多様な細胞の機能調節解析に応用していきたいと考えています。

生体内における細胞機能の調節には微小環境での液性因子の産生や転写因子の発現など多くの要素が関わっていることが知られていますが、膜電位などのイオン環境変化が細胞分化や機能調節を可変することが示唆されています。一方、神経細胞などの興奮に伴い活動電位を生じる細胞の膜電位変化を光制御する技術が近年報告されてきています。クラミドモナス藻が発現するチャンネルロドプシン 2 (ChR2) は、哺乳類が有するロドプシンとは異なり介在タンパクを介さずに青色光を照射するだけで陽イオンを通すイオンチャンネルとして働き、ChR2 を発現させた神経細胞を青色光照射すると活動電位を発生させることができます。

私たちはこの光でイオンチャンネルを開閉する技術を応用して、活動電位を発生しない細胞でも細胞機能や細胞分化を光制御できることを明らかにしました。ChR2 を発現させた株化アストロサイトでは、青色光照射によってナトリウムイオンやカルシウムイオンの細胞内流入が生じ、その結果グリオトランスミッターの放出が増大することがわかりました (図 1)。また、グリア前

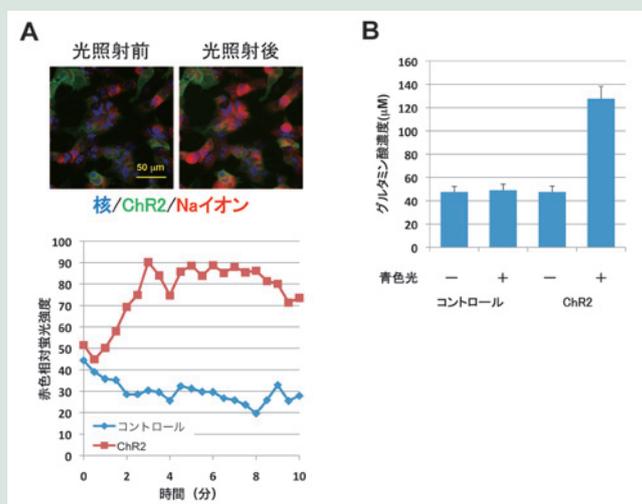
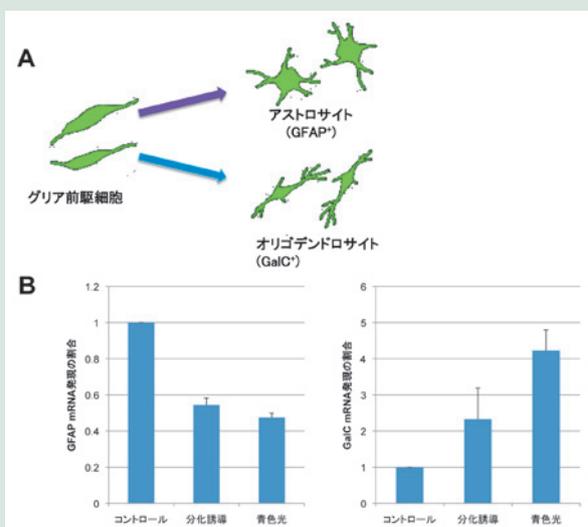


図 1 ChR2を遺伝子導入した株化アストロサイトの光制御 (A) ChR2を遺伝子導入した株化アストロサイトに青色光を30秒ごとに10分間照射すると細胞内にナトリウムイオンの流入が確認できました。(B) ChR2を導入したアストロサイトに青色光を1分ごとに24時間照射するとグルタミン酸の放出量が増大しました。

図 2 ChR2を遺伝子導入したグリア前駆細胞株のオリゴデンドロサイトへの分化誘導

(A) グリア前駆細胞株は、培養条件によって GFAP を高発現するアストロサイトにも GalC を高発現するオリゴデンドロサイトにも分化させることができます。(B) ChR2 を導入したグリア前駆細胞を無刺激条件 (コントロール)、オリゴデンドロサイトへ分化誘導させる条件 (分化誘導)、及び5分ごとに青色光を照射する条件 (青色光) で3日間培養しました。GFAP 及び GalC の mRNA 発現量を調べると、GFAP の発現は減少し GalC の発現が顕著に増大しました。



細胞内トラフィックが制御する増殖シグナル

花房 洋 大学院理学研究科助教

ヒトの体は膨大な数の細胞（約60兆個？）から構成されています。さらに日々の活動を行う中で、細胞の一部はたえず新しいものへと置き換わっていきます。このとき各細胞は、自身を取り巻く環境から様々な情報を受け取り、増殖／分化／細胞死など適切な応答を行います。このプロセスは個体としての恒常性維持に重要で、例えば一部の細胞が不適切な増殖を繰り返すと“癌”が形成され、個体の生存そのものが危険にさらされます。最近私たちは、LRRK1と呼ばれるリン酸化酵素が、上皮成長因子受容体（EGFR）の細胞内トラフィックを制御することで増殖シグナルを適切に調節していることを明らかにしました（Nature Commun. 2011; Mol. Biol. Cell 2012）。

成長因子とよばれる分泌性タンパク質は、細

胞膜上の受容体に結合すると、これを活性化し、細胞に増殖シグナルを送ります。上皮成長因子（EGF）は主要な成長因子の1つで、細胞膜上のEGFRに結合し細胞の増殖を促します。一方で、活性化したEGFRは、細胞内に取り込まれ（エンドサイトーシス）、細胞内小器官リソソームに送られます。リソソームには様々な分解酵素が存在し、EGFRはここで分解されてしまいます（図1）。リソソームでの分解は、EGFRからの増殖シグナルを終結させるのに重要な役割を果たしています。EGFRの細胞内トラフィックをもう少し詳しくみてみると、細胞膜上で活性化したEGFRはまず細胞膜付近の早期エンドソームと呼ばれる小胞に集められます。ここで再利用されるEGFRと分解されるEGFRとに仕分けされます。

再利用されるEGFRはリサイクリングエンドソームとよばれる小胞に移り、細胞膜へと戻っていきます。一方、リソソームによって分解されるEGFRは早期エンドソームとともに、細胞中央の核付近へと移動していきます。このとき早期エンドソームは移動しながら、多胞体／後期エンドソームへと成熟していくと考えられています。（図1）。ESCRT複合体（Endosomal sorting complex required for transport）と呼ばれるタンパク質複合体は、EGFRを再利用すべきか分解すべきか選別するのに働くタンパク質です。分解されるEGFRは、ESCRT複合

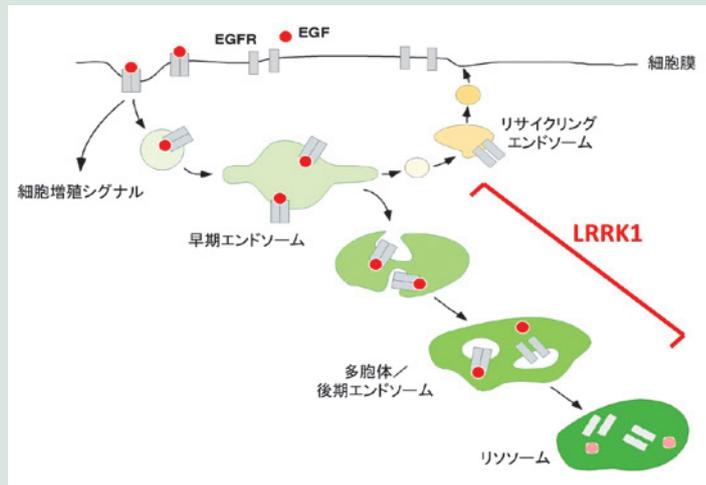


図1 活性化したEGF受容体（EGFR）の細胞内トラフィック
LRRK1はEGFRの早期エンドソームから後期エンドソームへの移行を制御している。

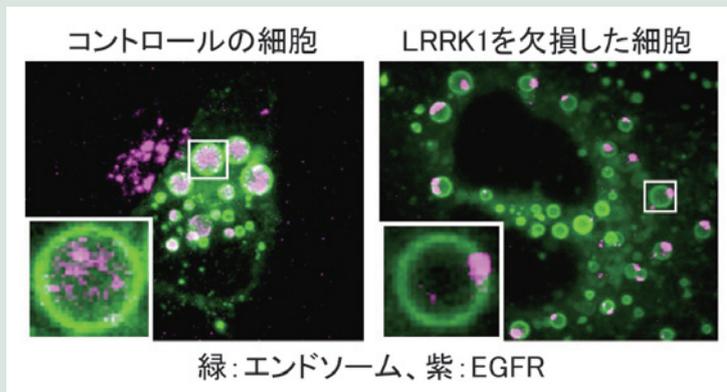


図2 EGFRのエンドソーム内腔への取り込み
EGFRのエンドソーム内腔への取り込みは、リソソームでの分解に必要なステップだが、LRRK1を欠損した細胞では取り込みがおきない。

体によって多胞体／後期エンドソームの内腔にある小胞にとりこまれ、その後、後期エンドソームがリソソームと融合すると分解されてしまいます。LRRK1はEGFRの細胞内トラフィックにおいて2つのステップで働いていることがわかってきました。1つ目のステップは、EGFRを含む早期エンドソームが移動しながら後期エンドソームへ成熟するステップです。LRRK1は酵素活性依存的にこのステップを制御しています。2つ目のステップは、EGFRがエンドソームの内腔小胞へ陥入するステップです。内腔小胞への取り込みは、リソソームによる分解に重要なステップであることが知られています。LRRK1は足場タンパク質としてEGFRとESCRT複合体を同じコンプレックス上に局在させ、EGFRが効率よく内腔小胞にとりこまれるように働いています(図2)。過剰な増殖シグナルは細胞の癌化につながりま

す。このため、活性化したEGFRはすみやかに分解されなければなりません。LRRK1はEGFRの細胞内トラフィックを制御することで、これを可能にしていると考えています。さらに興味深いことに、最近LRRK1のファミリー分子LRRK2が家族性パーキンソン病の原因遺伝子の一つであることが明らかになりました。LRRK1自身がパーキンソン病発症に関与するという報告はありませんが、LRRK2もタンパク質の細胞内輸送に機能しているという報告があり、LRRK1とLRRK2が一部共通のメカニズムで働いているのではないかと期待しています。実際私たちは、LRRK1と結合して機能する因子のいくつか、LRRK2とも結合することを見いだしています。今後、LRRK1の機能解析を進めることで、異なる側面からパーキンソン病発症メカニズムに迫れるのではないかと考えています。

略歴：2001年京都大学大学院生命科学研究所博士課程修了、同年日本学術振興会特別研究員、2002年名古屋大学大学院理学研究科助手、2007年同助教。博士（理学）京都大学。
趣味：テニス、野球（&大リーグ観戦）、水泳
いつも思うこと：細胞生物学という研究分野は、自分の身体でおきていることを、自分の脳が考え理解しようとする不思議な学問。

はなふさ ひろし



東海4県3市および国立4大学連携防災シンポジウムを開催

●減災連携研究センター

減災連携研究センターは、5月12日(土)、豊田講堂において、東海4県3市および国立4大学連携防災シンポジウム「自助・共助が息づく地域ぐるみの防災戦略」を開催しました。同シンポジウムは、東海4県と名古屋市、静岡市、浜松市、岐阜大、三重大、静岡大、本学が主催したもので、南海トラフ地震に備えるため約900名の参加者が意見を交わしました。



パネルディスカッションの様子

第1部では大村秀章愛知県知事、濱口総長によるあいさつの後、福和減災連携研究センター長が講演を行い、わが国を襲った地震被害の概要と、過去の事例を学びながら将来を考えることの重要性を説明しました。続いて林環境学研究科附属交通・都市国際研究センター長が、回復力のある地域社会を作るための要件や安全な国土の設計思想について、災害アセスメント実施の要請とスマートシユリンクの概念を紹介しました。

第2部は隈本邦彦減災連携研究センター客員教授をコーディネータとしてパネルディスカッションを行い、東海各県の国立大学と都市再生機構及び半田市岩滑自治会の代表者が、自助・共助の重要性について議論しました。鈴木康弘同センター教授は、東日本大震災における「想定外」の本質を「未想定」と断じ、再発防止に向けて減災戦略の思考プロセスを再考する、新たな「連携」の必要性を提言しました。他大学の教員からは、社会資本の維持管理を含む広い意味での防災人材育成の取り組みが紹介され、自助と共助が重要とされる防災まちづくりの実現に向けて、大学がどのように貢献するかについても活発な議論が交わされました。

奈良坂源一郎氏のブロンズ像披露式典を挙

●博物館

博物館は、4月24日(火)、奈良坂源一郎氏のブロンズ像披露式典を挙りました。同式典には、濱口総長、高橋事務局長、高橋昭名誉教授、加藤詔士名誉教授、奈良坂氏のご親族などが出席しました。

奈良坂氏の胸像は、元来昭和9年に建立されましたが、戦時供出され石膏像として再建されていました。これを原

型とした再製作が、平成23年度に開催された企画展「奈良坂源一郎 蟲魚圖譜－解剖学創始者のミュージアム」を機に行われ、同館の常設展に加えられました。

式典では、吉田同館長のあいさつの後、総長と吉田館長、奈良坂氏のご親族が銅像の除幕を行いました。続いて、総長が祝辞として、医学者及び博物学者としての奈良坂氏の功績を詳しく説明し、この像が同館に展示される意義を述べました。

奈良坂氏は、解剖学などの教育により本学医学部の基礎を築くともに、多数の医学書の執筆を通して我が国の解剖学教育の近代化に貢献しました。また、江戸時代の尾張本草学の流れを汲む博物学への造詣も深く、動物・植物・鉱物の展覧会などによる社会教育にも献身し、その集大成として明治25年に日本初の私立博物館である愛知教育博物館を創設しました。これらの功績により、「名古屋文化史上不滅の人」とも言われています。奈良坂氏が描いた博物画や手稿、書簡、写真など5,000点以上の資料が、親族などから本学博物館に寄贈され、医学史や大学史、博物館史、教育史に関わる資料として活用されています。



除幕式の様子(右から吉田館長、総長、奈良坂氏のご親族)

第1回地球教室「深海の地層と化石を調べよう！」を開催

●博物館

博物館は、5月12日(土)、13日(日)の2日間、第1回地球教室「深海の地層と化石を調べよう！」を開催しました。

地球教室は、名古屋市科学館との共催で行っている地域貢献事業で、野外での自然観察と博物館での座学を組み合わせた体験学習を、年に4回開催しています。今回は、日本地質学会中部支部による「地質の日(5月10日)」の関



南知多町片名の露頭で化石採集を行う参加者の様子

連イベントとしても行い、約150名の応募者から抽選で選ばれた小・中学生とその保護者15組が参加しました。

1日目は、博物館において、まず日本や世界のさまざまな地層のスライドを見ながら、地層とはどういうものかについて紹介しました。次に、地層を作る実験を行いながら、地層の形成過程を参加者に体感してもらいました。また、南知多町で採集された化石を観察し、その化石がどのような現象によって地層の中に作られたのかをイラストで表現し、発表しました。

2日目は、南知多町の礫ヶ浦と片名を訪問し、砂岩と泥岩の地層に見られるさまざまな構造を観察した後、化石の採集を行いました。参加者は、二枚貝やヒトデ、ウニ、カニなどの化石を自分で見つける興奮を味わうとともに、それらの化石がどのようにして地層に埋もれたのかを考えることによって、自然を身近に感じ理解を深めていました。

なお、これらの作業は、参加者の補助と安全確認のために、愛知大学名古屋一般教育研究室の援助を受けて行われました。

本学関係の新聞記事掲載一覧 [平成24年4月16日～5月15日]

記事	月日	新聞等名
1 森川高行環境学研究科教授は栄の歩行者天国について「運営側がコンセプトを持って管理した上で、集客の仕掛けが必要」と提言	4.16 (月)	中日 (朝刊)
2 瓜谷 章工学研究科教授は今春の入学者のうち原子力を専攻する学生が16%減少したことについて「既存の原発に関する技術や知識を持った研究者を育てることは重要」と語る	4.16 (月)	中日 (朝刊) 日経 (朝刊)
3 現代日本訳百科 (603) : 「防犯上のため」 出入り口を閉めます 町田 健文学研究科教授	4.17 (火)	中日 (朝刊)
4 東海四県三市および国立四大学連携防災シンポジウム開催 : 5月12日 福和伸夫減災連携研究センター長が基調講演	4.17 (火) 4.20 (金) 5.13 (日)	中日 (朝刊) 読売 朝日 (朝刊)
5 東山キャンパスグリーンベルトのチューリップが満開を迎えている	4.17 (火) 4.21 (土)	中日 (朝刊) 中日 西濃版 (朝刊)
6 著作 : 新書「昭和陸軍の軌跡」川田 稔本学名誉教授	4.17 (火)	中日 (朝刊)
7 論文の引用回数をもとにした世界の研究機関ランキングで本学は122位、国内では7位	4.17 (火) 4.18 (水)	日経 (夕刊) 日刊工業 朝日 (朝刊)
8 現代日本訳百科 (604) : ロボットが「動きだすことができる」町田 健文学研究科教授	4.18 (水)	中日 (朝刊)
9 日本内分泌学会学術総会開催 : 19~21日 大磯ユタカ医学系研究科教授が会長を務め自身の研究を講義、21日開催の市民公開講座では「健康と長寿をささえるホルモンの働き」の演題で講演	4.18 (水) 4.20 (金)	中日 (朝刊) 中日 (朝刊)
10 池内 了本学名誉教授が原子力発電所のストレステストについての問題点を指摘する	4.18 (水)	中日 (朝刊)
11 梶村益久医学部附属病院講師らの研究グループは下垂体後葉炎の患者の血清中に特定のタンパク質に対する自己抗体が多く含まれていることを発見	4.19 (木)	中日 (朝刊)
12 五島剛太理学研究科教授らの研究グループは動物と植物で細胞分裂を進める役割を担っているタンパク質が同じであることを突き止めた	4.19 (木)	中日 (朝刊)
13 現代日本訳百科 (605) : 「改革への意志と力」が問われる 町田 健文学研究科教授	4.19 (木)	中日 (朝刊)
14 第1回国際先端生物学・医学・工学会議開催 : 21日 太田美智男本学名誉教授ほかが講演	4.19 (木)	毎日 (朝刊)
15 名古屋文理大学、同短期大学部学長に景山 節氏本学卒業生	4.19 (木)	中日 (朝刊)
16 武田一哉情報科学研究科教授が開発した振り込め詐欺の通話を高精度で検出する技術が取り上げられる	4.19 (木)	読売
17 紙つぶて : 科学と語学力 篠原久典理学研究科長	4.19 (木)	中日 (夕刊)
18 名古屋大学・東北大学 春のマンドリン合同演奏会2012開催 : 5月4日	4.20 (金)	中日 (朝刊)
19 市橋克哉法学研究科教授はタクシーの車内カメラについて「撮影や録音を表示し、どんなときに記録を確認するか知らせなければ」と指摘する	4.21 (土)	中日 (朝刊)
20 川崎浩司工学研究科准教授は津波の避難所としての築山について「液状化しにくい場所を選ぶか植樹などで強度を出すことが必要」と語る	4.21 (土)	中日 (朝刊)
21 本学応援団長 西田 敏さん工学部3年生の活動が取り上げられる	4.21 (土)	朝日 (朝刊)
22 本学は2013年4月に複合材の研究開発拠点「ナショナルコンポジットセンター」を開設する	4.23 (月)	日刊工業
23 本学、中部経済産業局などはリニア中央新幹線の開通にむけて「グレーターナゴヤ都市モビリティ構想策定準備会」を設置する	4.23 (月)	日刊工業
24 現代日本訳百科 (606) : 「危険地域に行くのにも関わらず」町田 健文学研究科教授	4.23 (月)	中日 (朝刊)
25 渡邊信久シンクロトン光研究センター教授は学内禁煙徹底の必要性を指摘する	4.23 (月)	中日 (朝刊)
26 中部経済産業局は本学など7大学で構成する「中部先端医療開発円環コンソーシアム」と協力し先端医療に寄与する機器装置の開発に取り組む	4.23 (月)	日刊工業
27 2012年度東海学生アーチェリー王座出場校決定戦本戦 : 男子団体 本学1位、女子団体 本学1位	4.23 (月)	朝日 (朝刊)
28 生源寺眞一生命農学研究科教授は一般社団法人「アグリフューチャー・ジャパン」が開設する「日本農業経営大学校」の講師を務める	4.24 (火)	読売
29 本学などが協力し、豊田市が構築した「とよた日本語学習支援システム」が取り上げられる	4.24 (火)	朝日 (朝刊)
30 西村翔平さん本学学生はテレビ塔周辺をキャンパスに見立てる「NAGOYA 学生キャンパス『ナゴ校』」を企画する一人として記者会見に出席	4.24 (火) 4.29 (日)	朝日 (朝刊) 読売 朝日 (朝刊) 中日 (朝刊)
31 瀧口総長は本学医学部の基礎を築いた故奈良坂源一郎氏の胸像の披露式典に出席	4.25 (水)	中日 (朝刊)
32 現代日本訳百科 (607) : 「ドライバーを使用は」を遠慮ください 町田 健文学研究科教授	4.25 (水)	中日 (朝刊)
33 東海の大学力 : 社会とつながる名古屋大学	4.26 (木)	朝日 (朝日)
34 現代日本訳百科 (608) : コンビニに「出入りしている車」がいる 町田 健文学研究科教授	4.26 (木)	中日 (朝日)

本学関係の新聞記事掲載一覧 [平成24年4月16日～5月15日]

記事	月日	新聞等名
35 菅沼翔也さん本学卒業生は「名古屋おもてなし武将隊」豊臣秀吉役に選出される	4.25 (水)	朝日 (夕刊)
36 紙つづて：ホームズと科学 篠原久典理学研究科長	4.26 (木)	中日 (夕刊)
37 博物館野外観察園見学会開催：5月16日	4.27 (金) 5.11 (金)	読売 朝日 (夕刊)
38 春の叙勲受賞者 瑞宝大綬章：松尾 稔元総長 瑞宝中綬章：藤瀬浩司本学名誉教授、野本久夫同名誉教授、穂積和夫同名誉教授 瑞宝双光章：近藤心正元工学部事務長 紫綬褒章：松本邦弘理学研究科教授	4.28 (土) 4.29 (日) 4.30 (月)	中日 (朝刊) 中日 (朝刊) 日刊工業
39 日本語で論じる科学：小澤正直情報科学研究科教授の「小澤の不等式」をめぐる日本語で議論を深める	4.28 (土)	朝日 (夕刊)
40 ミニ講演会「サロン ABC」開催：21日 河野直子医学系研究科研究員が講演	4.28 (土)	朝日 (朝刊)
41 名古屋大学交響楽団定期演奏会開催：5月13日	4.28 (土)	中日 (朝刊)
42 名古屋経済大学学長佐々木雄太氏本学名誉教授は同副学長佐分晴夫氏本学名誉教授とともに中日新聞本社を訪れ抱負を語る	4.28 (土)	中日 (朝刊)
43 医学部附属病院でステンドグラフト治療を受けた患者が紹介される	4.28 (土)	朝日 (朝刊)
44 知の拠点セミナー：「オゾンを通してみる地球環境」水野 亮太陽地球環境研究所教授	4.29 (日)	読売
45 病院の実力：5大がん治療 医学部附属病院の肺がんの治療実績が照会される	4.29 (日)	読売
46 現代日本誤百科 (609)：国民の「理解を得られない」町田 健文学研究科教授	4.30 (月)	中日 (朝刊)
47 岡本耕平環境学研究科教授は「中京」という言葉について「当時の中京は名古屋市を示していた」と指摘する	4.30 (月)	読売
48 加藤博和环境学研究科准教授は高速バスの事故について「催行会社が責任を問われる立場になれば安全に配慮するようになる」と話す	4.30 (月)	朝日 (朝刊)
49 現代日本誤百科 (610)：「武力衝突が行われた」町田 健文学研究科教授	5. 1 (火)	中日 (朝刊)
50 木下俊則理学研究科教授、高橋宏二同助教らのグループは「オーキシン」に細胞の体積を増やす作用があることを突き止めた	5. 1 (火)	中日 (朝刊)
51 現代日本誤百科 (611)：「無事に部屋にいる」町田 健文学研究科教授	5. 2 (水)	中日 (朝刊)
52 第29回愛知学生サッカー選手権大会：本学は1-2で愛知東邦大学に敗れる	5. 2 (水) 5. 8 (火)	読売 中日 (朝刊)
53 訃報：株式会社日立製作所フェロー外村 彰氏 本学で博士号を取得	5. 2 (水) 5. 3 (木)	中日 (夕刊) 朝日 (夕刊) 中日 (朝刊) 他2社
54 森 英樹本学名誉教授は東日本大震災後の憲法9条論議について語る	5. 3 (木)	中日 (朝刊)
55 現代日本誤百科 (612)：爆発する事故 町田 健文学研究科教授	5. 3 (木)	中日 (朝刊)
56 市民公開講座「整形外科で扱う腫瘍とは」開催：6月16日 西田佳弘医学系研究科准教授が講演	5. 3 (木)	読売
57 澤 博工学研究科教授ほかの研究チームは超低温下でも液体の状態を保ち続ける物理現象を発見	5. 4 (金)	日経 (朝刊)
58 病院の実力：不妊治療についての医学部附属病院の実績が取り上げられる	5. 6 (日)	読売
59 本学など計12大学は東京大学の呼びかけでグローバル人材の育成をめざす教育改革推進懇話会を設置	5. 8 (火)	日経 (朝刊) 朝日 (朝刊)
60 本学も参加する産学協働人材育成円卓会議が開催され次代イノベーション人材を育てる行動計画を発表	5. 8 (火)	日経 (朝刊) 中日 (朝刊)
61 大内乗有医学系研究科寄附講座教授らの研究チームはマウス実験で心筋梗塞を抑制するホルモンを特定	5. 8 (火)	中日 (朝刊)
62 現代日本誤百科 (613)：人口が「三倍多い」町田 健文学研究科教授	5. 8 (火)	中日 (朝刊)
63 細胞レベルで生物を研究する拠点「細胞生理学研究センター」を開設した	5. 8 (火)	日刊工業
64 大路樹生博物館教授はオウムガイについて語る	5. 8 (火)	読売
65 レーザー：野依良治本学特別教授は理事長を務める理化学研究所の今後について社会貢献を重視する姿勢をとる	5. 8 (火)	日刊工業
66 なごや環境大学 第10回 テラ・カフェ「カメルーン講座」嶋田義文学研究科教授が講師を務める	5. 8 (火)	中日 (朝刊)
67 現代日本誤百科 (614)：「寒気がゆるむ」町田 健文学研究科教授	5. 9 (水)	中日 (朝刊)
68 大路樹生博物館教授はカプトガニについて語る	5. 9 (水)	読売
69 2014年の『『持続可能な開発のための教育の10年』会合』にむけ教育学部附属高等学校が加盟するユネスコスクールへの参加を呼びかけている	5. 9 (水)	朝日 (夕刊)
70 松尾 稔元総長が春の叙勲大綬章親授式に出席	5. 9 (水)	日経 (夕刊) 中日 (夕刊)
71 叙位叙勲 従四位瑞宝中綬章 坂神洋次生命農学研究科元教授、従四位 池谷和夫本学名誉教授	5. 9 (水)	読売

本学関係の新聞記事掲載一覧 [平成24年4月16日～5月15日]

記事	月日	新聞等名
72 高校生の職場体験を支援するチャレンジ・フォー・チャレンジに参加した服部保志さん本学学生の取り組みが取り上げられる	5. 9 (水)	朝日 (朝刊)
73 国立天文台教授森田耕一郎氏本学卒業生が南米チリで死亡した事件で、現地警察は他殺と断定	5. 9 (水) 5.10 (木)	中日 (朝刊) 他4社 中日 (朝刊) 日経 (夕刊)
74 現代日本誤百科 (615) : 加害者は「完全責任能力に近い」町田 健文学研究科教授	5.10 (木)	中日 (朝刊)
75 紙つぶて：同時発見の謎 篠原久典理学研究科長	5.10 (木)	中日 (夕刊)
76 国立天文台教授森田耕一郎氏本学卒業生が殺害された事件で容疑者を逮捕	5.11 (金) 5.12 (土) 5.13 (日)	朝日 (夕刊) 他2社 読売 他2社 読売
77 愛知県の医師不足に関して、医学部附属病院に設けられた「地域枠」が取り上げられる	5.11 (金)	日経
78 大学再生：対話できる国際人を 本学の外国人教員による教養講義プログラムの導入が取り上げられる	5.11 (金)	読売
79 教育学部附属高等学校は自転車通学の生徒が200日間無事故無違反を心がけるラリーに参加する	5.11 (金)	中日
80 大規模災害の発生に備え中部地方の「基幹的広域防災拠点」の整備をめざす検討会が発足、福和伸夫減災連携研究センター長が座長を務める	5.12 (土)	読売
81 鷺谷 威減災連携研究センター教授が委員長を務める日本地震学会東北地方太平洋沖地震対応臨時委員会は東日本大震災を踏まえ地震研究において健全な批判精神やコミュニケーションが欠如していたなどとする総括をまとめた	5.12 (土) 5.15 (火)	中日 (朝刊) 日経 (朝刊)
82 本学学生グループ「NUMAP」が企画する金環日食観望会 in 名大が紹介される	5.12 (土)	中日 (朝刊)
83 「人知の闇」を超える：論語の「学習」という教え 東京大学教授安富 歩氏元本学助教	5.12 (土)	中日 (朝刊)
84 第23回 spcafé「イスラーム 生活の中の神様」開催：22日	5.12 (土)	中日 (夕刊)
85 石川俊平さん本学学生など名古屋市内の大学生がフリーペーパー「DON」を創刊	5.12 (土)	中日 (夕刊)
86 吉村 崇生命農学研究科教授はニワトリが朝を告げるとき最も強いオスが最初に鳴くことを突き止めた	5.13 (日)	読売
87 本学、文部科学省などは上町断層地震について発生確率は大幅に低くなる可能性があることを突き止めた	5.13 (日)	朝日 (朝刊)
88 深読み先読み：大栄技研工業株式会社社長山守一久氏本学卒業生 前向き志向が新たな電動アシスト自転車を生む	5.13 (日)	朝日 (朝刊)
89 現代日本誤百科 (616) : 「話が事実と反する」町田 健文学研究科教授	5.14 (月)	中日 (朝刊)
90 鷺谷 威減災連携研究センター教授は地震が増える活動期の存在に関し M8級の巨大地震の影響について「日本列島にかかっている力は単純ではないが、活断層に与える影響は小さくない」と話す	5.14 (月)	朝日 (朝刊)
91 中部地方の経済関連学部の学生たちがゼミごとに研究成果を発表する「2012年度中部経済学インターゼミ」の初会合が開かれ、本学学生も参加する	5.14 (月)	中日 (朝刊)
92 大学生、主体的学びを 中央教育審議会大学教育部会長・名古屋経済大学長佐々木雄太本学名誉教授	5.14 (月)	日経 (朝刊)
93 大日方五郎エコトピア科学研究所教授はトヨタ自動車と共同で、武田一哉情報科学研究科教授はデンソーと共同で歩行者を巻き込んだ自動車事故を未然に防ぐ新技術を開発	5.15 (火)	日経 (朝刊)
94 山本章夫工学研究科教授が委員長を務める原子力災害対策計画策定検討委員会が発足	5.15 (火)	中日 (朝刊) 朝日 (朝刊)
95 清水裕之環境学研究科教授は栄地区の人氣衰退に関して「名駅地区が伸びれば伸びるほどほかが沈んでしまう」と指摘する	5.15 (火)	朝日 (朝刊)

平成24年度名古屋大学公開講座

■全学企画

テーマ：危機に立ち向かう英知－解決への展望－

開催日時：平成24年8月16日(木)～10月11日(木)の火・木曜日の全15回
午後6時～午後7時30分

会場：経済学部第2講義室

募集定員：200名

応募資格：満18歳以上の方

受講料：9,200円

ホームページ：<http://www.nagoya-u.ac.jp/international/lecture/open-lecture/>

申込・問い合わせ先：研究協力部社会連携課「公開講座」係 TEL：052-789-5969



日程	テーマ	講 師
8/16	電力の供給体制と日本経済の進路	経済学研究科 根本 二郎 教授
8/21	救急・災害医療の現状と未来－救急医療安定化を目指した解決への展望－	医学系研究科 松田 直之 教授
8/23	森林域における放射能汚染の現状と課題－植物を用いた除染の可能性－	生命農学研究科 竹中 千里 教授
8/28	私たちを取り巻く放射能・放射線	アイソトープ総合センター 柴田 理尋 教授
8/30	地震の予測とその現状	環境学研究科 山岡 耕春 教授
9/6	危機への心理的対応－事後ケアから未然防止へ－	教育発達科学研究科 窪田 由紀 教授
9/13	リスクについて考える：千年に一度とは	多元数理科学研究科 大平 徹 教授
9/18	南海トラフ巨大地震・津波に備えて	工学研究科 川崎 浩司 准教授
9/20	日本語のわからない外国人など情報弱者への防災情報	情報科学研究科 宮尾 克 教授
9/25	原発問題と法－事故前後の法制度と法にできること－	法学研究科 下山 憲治 教授
9/27	濃尾震災と犠牲者追悼	文学研究科 羽賀 祥二 教授
10/2	耐震技術の進歩と課題	減災連携研究センター 護 雅史 准教授
10/4	ドイツにおける脱原発と地域社会の「その後」	環境学研究科 青木 聡子 講師
10/9	原発事故で放射能の大気拡散予測は役立つのか？	工学研究科 山澤 弘実 教授
10/11	自然エネルギーと内発的發展	環境学研究科 丸山 康司 准教授

■ラジオ公開講座

テーマ：危機に立ち向かう英知－解決への展望－

開催期間：平成24年7月1日(日)～9月2日(日) 毎週日曜日午前11時～午前11時30分

放送局：東海ラジオ放送(1332KHz)

問合せ先：研究協力部社会連携課「公開講座」係 TEL：052-789-5969

日程	テーマ	講 師
7/1	森林域における放射能汚染の現状と課題－植物を用いた除染の可能性－	生命農学研究科 竹中 千里 教授
7/8	耐震技術の進歩と課題	減災連携研究センター 護 雅史 准教授
7/15	日本語のわからない外国人など情報弱者への防災情報	情報科学研究科 宮尾 克 教授
7/22	救急・災害医療の現状と未来－救急医療安定化を目指した解決への展望－	医学系研究科 松田 直之 教授
7/29	地震の予測とその現状	環境学研究科 山岡 耕春 教授
8/5	南海トラフ巨大地震・津波に備えて	工学研究科 川崎 浩司 准教授
8/12	電力の供給体制と日本経済の進路	経済学研究科 根本 二郎 教授
8/19	濃尾震災と犠牲者追悼	文学研究科 羽賀 祥二 教授
8/26	リスクについて考える：千年に一度とは	多元数理科学研究科 大平 徹 教授
9/2	危機への心理的対応－事後ケアから未然防止へ－	教育発達科学研究科 窪田 由紀 教授

■部局企画

日程	講座名等	会場	定員	受講料	問い合わせ先
平成24年9月～ 平成25年3月の土曜日 (10回程度) 10:00～12:00	オープンカレッジ 自由奔放サイエンス	経済学部 カンファレンスホール	約200名	無料	ecoextender@soec.nagoya-u.ac.jp (経済学研究科エクステンション・サービス) 052-783-8900 FAX: 052-783-8905 (キタン会)
8/5(日)～8/7(火) 10:00～17:00	公開セミナー「天文学の最前線」	名古屋市科学館および 名古屋大学	300名	学生500円 一般1000円	大学院理学研究科 素粒子宇宙物理学専攻 鈴木 建 内線 6196
11/17(土) 13:30～16:00	平成24年度鶴舞公開講座	医学部附属病院 中央診療棟3階講堂	200名	無料	医学部・医学系研究科総務課総務第一掛 052-744-2423 FAX: 052-744-2785 iga-sou1@post.jimu.nagoya-u.ac.jp
9/29(土) 13:00～16:30	橋守講座 ー地域における橋の番人ー	ベンチャービジネスラボラトリー、 (3階)ベンチャーホール 実施はN ² U-BRIDGEを使用	30名	無料	社会基盤工学専攻橋梁長寿命化推進室 052-789-5690 hikaru@nagoya-u.jp
8/2(木) 9:30～16:30	第1期高大連携・ものづくり公開講座 (第7回)	名古屋大学工学研究科 創造工学センター (IB電子情報館北棟10階)	10名程度	400円 (予定)	名古屋大学工学研究科創造工学センター 「高大連携・ものづくり公開講座」 052-789-3788 mono@cplaza.engg.nagoya-u.ac.jp
平成25年3月22日(金) (予定)	第2期高大連携・ものづくり公開講座 (第8回)	名古屋大学工学研究科 創造工学センター (IB電子情報館北棟10階)	10名程度	400円 (予定)	名古屋大学工学研究科創造工学センター 「高大連携・ものづくり公開講座」 052-789-3788 mono@cplaza.engg.nagoya-u.ac.jp
8/16(木)、8/17(金)、 8/18(土) 10:00～17:30 各日6時間 (昼休み1時間、休憩計30分)	英語の書記体系ー文字と綴りについてー	国際開発研究科棟6階 第3講義室	20名	8,200円	文系総務課総務グループ 川原弘美 052-789-4952
10/20(土) 15:00～18:00	世界の構造変動と大学の国際展開・ 連携・協力	国際開発研究科棟8階 多目的オーディトリウム	80名	無料	文系総務課総務グループ 川原弘美 052-789-4952
夏(アゴラ) 8/6(月)～8/8(水) 質問会および講座別 発表会準備 8/27(月) 秋(公開講座) 10/27(土)、11/10(土)、 11/17(土) 講座別発表会 12/8(土) 9:30～16:30	2012年度数学アゴラ夏季集中および 秋季公開講座	多元数理科学棟509号室	約100名	無料	愛知県立高校以外の人: 名古屋大学大学院多元数理科学研究科 教育研究支援室数学アゴラ係 052-789-5994 愛知県立高校の生徒: 愛知県「知の探究講座」
9/28(金) 13:00～14:30	情報科学研究科先端技術公開セミナー	IB電子情報館中棟015講義室	100名	無料 (事前申し 込み要)	大学院情報科学研究科 広報渉外委員会 担当 庶務掛 052-789-4716 gsis@is.nagoya-u.ac.jp
9/28(金) 15:00～17:30	情報科学研究科基盤研究公開セミナー 「感覚の情報科学へ視る・触るを 探求する」	IB電子情報館中棟015講義室	100名	無料 (事前申し 込み要)	大学院情報科学研究科 広報渉外委員会 担当 庶務掛 052-789-4716 gsis@is.nagoya-u.ac.jp
第1回:6/10(日) 14:00～16:40 第2回:8/8(水)(予定) 13:00～17:00(予定)	市民参加アベニュー 「聞いてみよう、見てみよう! あなたの周りの電気と暮らし」	第1回:名古屋大学 IB電子 情報館中棟IB015講義室 第2回:名古屋大学 VBL ベンチャーホール(予定)	各回 100名程度	無料	名古屋大学エコトピア科学研究所 エネルギーシステム寄附研究部門 小島寛樹 052-789-5874 h-kojima@esi.nagoya-u.ac.jp
10/20(土) 13:00～16:30	名古屋大学環境医学研究所 市民公開講座2012	名古屋大学 野依記念学術交流館	150名	無料	名古屋大学環境医学研究所 発生・遺伝分野 052-789-3874 hayashiy@riem.nagoya-u.ac.jp
7/28(土) 13:00～16:00	第11回 Jr. サイエンス教室	生物実習室(G館113号室)	20名	無料	遺伝子実験施設 jr-sci@gene.nagoya-u.ac.jp 内線 3086
11月下旬	第12回遺伝子実験施設公開セミナー	理学南館大講堂 坂田・平田ホール	200名	無料	遺伝子実験施設 http://www.gene.nagoya-u.ac.jp 内線 3086
8/4(土)～8/5(日) (2日間同一コースを受講) 10:00～16:00 申込締切:7/2(月)	公開実験講座2012 「バイオサイエンス・バイオテクノロジー を体験する」	生物機能開発利用研究 センターの各研究室	15名 対象者: 社会人及び 学生(高校 生以上) ※二日間出 席可能な方	2,500円	生物機能開発利用研究センター http://bbc.agr.nagoya-u.ac.jp/index.html 052-789-5194 又は 052-789-5838
9～10月の土曜日 (2～3回) 14:00～16:00	柔道教室	第4体育館	30名程度	500円 (予定: 保険代)	瓜谷章(柔道部部长) 052-789-3797

※各公開講座については、<http://www.nagoya-u.ac.jp/international/lecture/open-lecture/> に最新情報を掲載しています。

開催月日・場所・問い合わせ先等

内容

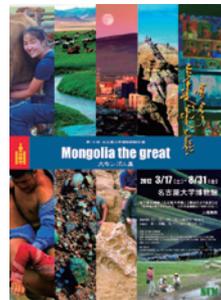
3月17日(土)～8月31日(金)

場 所：博物館展示室
 時 間：10:00～16:00
 休 館 日：日・月曜日、
 8月11日(土)～14日(火)
 (6月22日(金)、23日(土))は
 展示入れ替えのため、
 常設のみ開館)
 入 場 料：無料

第16回博物館特別展「大モンゴル展」

[関連講演会]

場 所：博物館講義室
6月16日(土)
 時 間：13:00～14:30
 講演題目：「子孫の語る榎本武揚」
 講 演 者：榎本隆充氏(東京農業大学客員教授)
 時 間：15:00～16:30
 講演題目：「榎本武揚が見た露清関係とモンゴル：
 『シベリア日記』を中心にして」
 講 演 者：醍醐龍馬氏(大阪大学)
 参 加 費：無料
7月4日(水)
 時 間：14:00～15:00
 講演題目：「創業者・三島海雲の軌跡～『カルピス』の秘密」
 講 演 者：篠田 直氏(カルピス株式会社マネージャー)
 時 間：15:15～15:45
 講演題目：「カルピス社における発酵乳・乳酸菌研究について」
 講 演 者：松下晃子氏(カルピス株式会社主任)
7月21日(土)
 時 間：13:00～14:30
 講演題目：「モンゴルの詩人たちー現代に息づくモンゴル詩の伝統と文化ー」
 講 演 者：阿比留美帆氏(元駐モンゴル日本大使館専門調査員)
7月28日(土)
 時 間：13:00～14:30
 講演題目：「モンゴルの馬 馬頭琴伝説からみた馬の陰喩」
 講 演 者：藤井真湖氏(愛知淑徳大学准教授)



[問い合わせ先]
 博物館事務室 052-789-5767

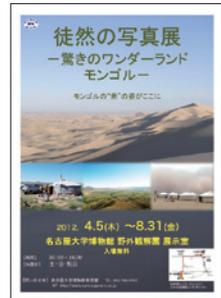
4月5日(木)～8月31日(金)

場 所：野外観察園展示室
 時 間：10:00～16:00
 休 館 日：土・日曜日、祝日
 入 場 料：無料

博物館サテライト展示

「徒然の写真展ー驚きのワンダーランド モンゴルー」

[問い合わせ先]
 博物館事務室 052-789-5767



6月16日(土)、23日(土)、30日(土)

場 所：博物館講義室
 時 間：10:30～12:00
 定 員：80名
 対 象：一般(基本的に毎回参加できる人)
 参 加 費：無料

名古屋市生涯学習推進センター

大学連携キャンパス講座

「達人(研究者)と話そうーヒトとからだー」

講演題目：「細胞が行うタンパク質の新陳代謝と病気」(6/16)
 講 演 者：山根 隆氏(本学名誉教授)
 講演題目：「みずみずしい皮膚の源は」(6/23)
 講 演 者：八田一郎氏(本学名誉教授)
 講演題目：「健康に役立つ磁気」(6/30)
 講 演 者：毛利佳年雄氏(本学名誉教授)

[問い合わせ先]
 博物館事務室 052-789-5767



6月16日(土)、8月4日(土)

場 所：博物館実験室、
 東山キャンパス構内
 時 間：10:20～15:20
 定 員：20名
 対 象：小学5年生以上、一般
 参 加 費：50円(保険料)

ミクロの探検隊

テ ー マ：「観察園のムシを電子顕微鏡で見よう」(6/16)、
 「雑木林のムシを電子顕微鏡で見よう」(8/4)

[問い合わせ先]
 博物館事務室 052-789-5767



イベントカレンダー

開催月日・場所・問い合わせ先等

内容

6月20日(水)

場 所：文系総合館 7階
カンファレンスホール
時 間：18:30~20:00

高等教育研究センター 第108回招へいセミナー

講演題目：「組織学習論から見た FD・SD」
講 演 者：安藤史江氏（南山大学准教授）



[問い合わせ先]

高等教育研究センター
助教 齋藤芳子 052-789-5696

**6月23日(土)、7月7日(土)、
7月21日(土)、8月4日(土)**

場 所：インキュベーション施設 1階
プレゼンテーションルーム
時 間：10:00~15:00

ビジネス人材育成センター 平成23年度前期 B 人セミナー

テ ー マ：「コンサルティング業界」
「博士・ポスドクのための就職ガイダンス」(6/23)
「製造業における、知財戦略と知財部門の業務内容」
「プレゼンテーションスキル研修」(7/7)
「再生医療の現状と今後の展望」(7/21)
「ビジネスマナーと企業のルール」、「食品のためのヒト臨床試験業界」(8/4)

[問い合わせ先]

社会貢献人材育成本部
ビジネス人材育成センター 052-747-6490

7月4日(水)

場 所：IB 電子情報館 2階大講義室
時 間：13:00~17:10

平成24年度工学部懇話会

[問い合わせ先]

工学部・工学研究科
教務課学生支援掛 052-789-3599

7月19日(木)

場 所：医学部附属病院中央診療棟 3階
講堂
時 間：13:00~18:15
対 象：関係研究者
参 加 費：無料
懇親会費：1,000円

グローバル COE 「機能分子医学への神経疾患・腫瘍の融合拠点」 第5回国内シンポジウム

[問い合わせ先]

GCOE 推進室 052-744-1946

7月26日(木)

場 所：文系総合館 7階オープンホール
時 間：16:00~18:00

高等教育研究センター 第61回客員教授セミナー

講演題目：「大学のナレッジマネジメントー IR から KM へ」
講 演 者：松塚ゆかり氏（一橋大学教授）

[問い合わせ先]

高等教育研究センター 052-789-5696

8月3日(金)

場 所：齋藤永宏研究室
(グリーンビークル材料
研究施設 3階305室)、他
時 間：10:00~16:15
定 員：20名
対 象：小学生 5年生、6年生
(可能であれば保護者同伴)
参 加 費：無料

日本学術振興会連携事業 ひらめき☆ときめきサイエンス ～ようこそ大学の研究室へ～ KAKENHI

テ ー マ：『ハスの葉のすごい』を顕微鏡でのぞいてみよう
内 容：特殊な顕微鏡でハスの葉の表面を観察し、生物の「すごい」の源について一緒に考える

[問い合わせ先]

齋藤永宏研究室 052-789-5163

イベントカレンダー

開催月日・場所・問い合わせ先等

内容

8月4日(土)、5日(日)

場 所：生物機能開発利用研究センター

時 間：10:00～16:00

定 員：15名

対 象：高校生以上、一般

(2日間出席可能な人)

参 加 費：2,500円

[問い合わせ先]

生物機能開発利用研究センター

公開実験講座2012係 052-789-5194

生物機能開発利用研究センター

公開実験講座2012

テ ー マ：「バイオサイエンス・バイオテクノロジーを体験する」

内 容：現代生物学についての正しい知識を科学実験を通して体験し身につける
実験講座

実施コース：「遺伝子について学んでみよう」、「細胞を光らせてみよう」、
「細胞の顔、糖鎖を見てみよう」(2日間同一コースを受講)

8月8日(水)

場 所：ベンチャービジネスラボラトリー
(予定)

時 間：13:00～17:00 (予定)

参 加 費：無料

[問い合わせ先]

エコトピア科学研究所

寄附研究部門准教授 小島寛樹

052-789-5874

市民参加アベニュー

「聞いてみよう、見てみよう！ あなたの周りの電気と暮らし」

内 容：電気に関する実験

講 演 者：花井正広(エコトピア科学研究所寄附研究部門教授)、他

8月11日(土)

場 所：IB 電子情報館

時 間：10:00～16:00

対 象：高校生、高校生相当年齢の者

(日本数学コンクール)、

小学5年生以上、中学生

(日本ジュニア数学コンクール)

参 加 費：1,000円

[問い合わせ先]

研究協力部社会連携課

日本数学コンクール係 052-788-6144

第23回日本数学コンクール

第16回日本ジュニア数学コンクール

8月16日(木)～10月11日(木)

(期間内の火・木曜日)

場 所：経済学部第2講義室

時 間：18:00～19:30

対 象：一般

参 加 費：9,200円(全15回)

[問い合わせ先]

研究協力部社会連携課 052-789-5969

平成24年度名古屋大学公開講座

テ ー マ：「危機に立ち向かう英知—解決への展望—」

名大トピックス No.229 平成24年6月15日発行

編集・発行／名古屋大学広報室

本誌に関するご意見、ご要望、記事の掲載などは広報室にお寄せください。

名古屋市千種区不老町(〒464-8601)

TEL 052-789-2016 FAX 052-788-6272 E-mail kouho@post.jimu.nagoya-u.ac.jp

表紙

田中利治生命農学研究科教授による基礎セミナーで野菜の成長を確認する学生
(平成24年5月18日)



名大トピックスのバックナンバーは、名古屋大学のホームページ
(<http://www.nagoya-u.ac.jp/extra/topics/>)でもご覧いただけます。

122 学部の誕生と草創期① — 農学部 —

1951(昭和26)年に誕生した名古屋大学農学部ですが、愛知県に農業高等教育機関を設置しようという動きは、1910年代にまでさかのぼることができます。愛知県安城農林学校(現在の愛知県立安城農林高校)を専門学校に昇格させるという構想が有力でした。

1930年代に入り、名古屋帝国大学創設運動が本格化すると、農学部を設置することが強く要望されるようになります。しかし、国から戦争遂行のための重要性は低いと見なされた農学部の設置は、いよいよ困難になっていきました。結局、1939(昭和14)年に創立された名古屋帝国大学に農学部は置かれなかったのです。

戦後、田村春吉総長が農学部の設置に乗り出しますが、ネックになっていたのが農場や演習林などの実習施設の確保でした。田村総長は、岐阜農林専門学校(現在の岐阜大学応用生物科学部)を名古屋大学に越県包括し、これを基

礎に農学部を設置するという構想を打ち出し、一時はそれが成功するかに見えました。しかし、折しも文部省が定めた新制国立大学の設置方針には、他県に学部を設置することが禁じられていたため、この構想も失敗に終わりました。このことが原因で、1949(昭和24)年の新制名古屋大学のスタートに農学部だけが間に合わなかったのです。

しかし、愛知県に農業高等教育機関の設置を求める気運は盛り上がり、1949年、政財界の有力者を集めた名古屋大学農学部創設後援会が結成され、県を挙げての運動がおこなわれました。敷地や校舎、実習施設等については、「日本デンマーク」の中心として栄えた安城町の全面的な協力により、同町に確保されました。この時の農学部の創設費として、県や県下の関係団体が負担した金額は、実に1億円近くに達しています。1950年度の愛知県一般会計歳出総額が約82億円だった時代です。



3	1	2
4	5	

- 1 名古屋大学安城キャンパス(農学部)全景(1951~1966)。愛知学芸大学(現在の愛知教育大学)安城分校だった敷地と校舎を利用した。現在は、安城市総合運動公園(安城市新田町小山)になっている。
- 2 名鉄バス「名大農学部前」停留所。バスの行き先の「今村」とは、現在の名鉄新安城駅。
- 3 実験室での授業風景(安城時代)。
- 4 安城市総合運動公園内にある記念碑。2006年に安城時代の関係者等の募金によって建立された。奥に見えるのは、愛知学芸大学安城分校の前身にあたる愛知青年師範学校の記念碑。
- 5 農学部管理棟の西側にそびえたつメタセコイア(中央)。最初は、1955年に農学部第1回卒業生によって植樹された。当時は1mくらいの苗木であった。その後、1966年の東山移転にともなってここへ移植された。